

特別支援学校中学部での授業「見つけた考えた」

ーその5 個に応じた期末テストの実施と授業後評価に関する考察ー

慶野直美

（旭出学園(特別支援学校)）

KEY WORDS: 知的障がい、授業評価、マカトン法

【目的】

特別支援学校中学部での授業「見つけた考えた」の授業後評価に関する報告(福田,2019)を経て、学習者本人が理解していることを確認する期末テストの実施を重ねてきた。期末テストを実施し、結果やその取り組みの様子などの検討を中学部内で重ねたところ、生徒一人ひとりに合わせたテストを作成する必要があることが提案された。個に合わせたテスト作成の実践とテスト結果から見てくる課題について考察する。

【方法】

(1) テスト作成にあたって:授業では、生徒が持ってきた植物が発表物として取り上げられることが多い。そこで、20XX年度は植物が発表物される場合に、草の体のどの部位(根、茎、葉、花、実、種)であるか、写真①の視覚教材を使って毎回考えるようにしてきた。それに伴い、テスト内容は、①発表物の名称②草の体の部位③発表物が草の体のどの部位にあたるかを主だったものとした。その出題方法及び解答方法は生徒が文字で書き表すタイプ(a)、マカトンシンボルなどによる選択肢から選んで○をつけたり選択肢のシールを貼ったりするタイプ(b)、などを使い分けた。



写真①

(2)参加生徒: 中学部生徒 17 名

(3)実施日と実施方法: 20XX 年 12 月、20XX+1 年 3 月の 2 回

『見つけた考えた』の授業中 約 30 分

テストについては、タイプ(a)に取り組む生徒 11 名、タイプ(b)に取り組む生徒 6 名である。生徒がテストに取り組む間、教員 7 名は生徒を 1～3 名ずつ担当し、設問の理解ができていないか確認しながら進めたり、タイプ(b)のテストに取り組む生徒に対しては教員が選択肢を示したりしながらテストに取り組んだ。

【倫理的配慮】

発表にあたり学校長の承認を得、個人が特定されないよう記載した。

【結果】

	①名称	②草の体の部位	③どの部位
12 月	72.5%(全 6 問) (a)74.2% (b)69.4%	94.1%(全 5 問) (a)96.4% (b)86.7%	55.5%(全 7 問) (a)58.4% (b)57.1%
3 月	83.4%(全 11 問) (a)75.2% (b)81.8%	93.5%(全 5 問) (a)85.4% (b)91.7%	86.2%(全 6 問) (a)84.8% (b)72.2%

12 月実施のテストでは、①発表物の名称(「りんご」「あげはちょう」「さつまいも」など馴染みのあるものの写真を見てタイプ(a)は名称を書く、タイプ(b)はシンボルを選ぶ)問題は高い正答率を示した。②草の体の部位答える問題(写真②)は、ほぼ全生徒が正解していた。しかし、③発表物が草の体のどの部位にあたるかを答える問題(例:写真③)は、正答率が②や④に比べて低かった。テストの結果を受けて中学部内で検討したところ、「実」と答えられなかった要因の一つとして選択肢の提示数が多いことが挙げられた。そこで、3 月実施のテストでは、選択肢の数を変更した(写真④)ことで、部位を問う問題についての正答率が上昇した。



写真②

写真③

写真④

【考察】

『見つけた考えた』の授業では身の回りの自然や事象などを中心に、生徒同士が対話しながら学びあえるように進行役の教員が進めていく授業である。毎回取り上げる題材や話題の展開が異なるため評価の難しさが長年の課題であった。そこで授業の中で共通テーマになりやすい植物のからだの作りという抽象的な概念を取り上げ、視覚的教材を使い指導を続けてみたら、多くの生徒が理解できるようになるという成果が期末テストによって見えてきた。選択肢を少なくすることで、生徒一人ひとりが「わかった」ことを「わかっている」と表出しやすくなる傾向もわかってきた。テストのための授業ではない。あくまでもテストは「わかった」ことを表出する場である。大事なことは、日々の授業が、生徒にとって「わかる」「もっと知りたい」と思えるような時間となることである。これからも生徒たちの学びのために研鑽していきたいと思う。

(KEINO Naomi)